

薬物、アルコール、ギャンブルの依存症治療及び回復支援のための取組みについて

現状の課題

- 依存症の治療、相談を担う社会資源の不足
- 緊急対応が必要な患者の受入体制の不足
- 医療機関や関係団体等の相互連携体制不足
- 依存症疾患への根強い偏見

課題解決のために

国の「依存症治療拠点機関設置運営事業」(H26～3か年のモデル事業)を活用し、治療の拠点を整備するとともに、支援のネットワークを構築することで、相談・治療・回復支援について切れ目のない体制を整備する。

モデル事業としての最終目標

- 支援を必要とする人が必要な時に、必要な情報を得て、適切な支援を受けることができる環境の整備
- 本事業で集積した知見を、国が指定した全国拠点機関で評価・検討を行い、依存症の治療・回復プログラムや支援ガイドラインの開発など、支援体制モデルを確立

依存症治療拠点機関設置運営事業

大阪府依存症対策推進協議会

役割

依存症治療拠点機関における事業計画の策定、事業の効果検証、問題点の抽出、及び拠点機関への提言

参画機関

専門的な医療機関、行政機関の他に、当事者・自助グループや、保護観察所・刑務所等の司法分野の機関も参画(大阪府モデルの特色)

※今後、府警本部や弁護士会、司法書士会、医師会、薬剤師会などへも参画を呼びかける予定

依存症治療拠点機関

【大阪府立精神医療センター】

【平成26年度の主な活動】

- 司法分野も含めた依存症ネットワークの構築
- アルコール、薬物に加え、ギャンブル依存症相談窓口を新設
- 専門的な独自の治療回復プログラム(通称「BOCHI BOCHI(ぼちぼち)」)の実施
- ロールプレイを用いた体験型の研修の実施
- 他の医療機関への専門医等の派遣体制の整備

全国初

【平成27年度の主な取組み】

- 関係機関と医療機関の連携のための情報連携シートの作成
- 治療回復プログラム(通称「BOCHI BOCHI(ぼちぼち)」)の拡充
- ギャンブル依存症治療導入に向けた準備
- 教育関係機関へ依存症に関する知識の普及
- 依存症啓発リーフレットの作成(出所後の依存症者を対象とした啓発等)

大阪アディクションセンター(OAC)

当事者団体・司法・医療・行政など依存症者支援に携わっている機関等によるネットワークを構築し、モデル事業終了後も依存症対策の一翼を引き続き担う。(H27.5設置)

【OACが目指す当事者支援、依存症対策ネットワークモデル】

